

## 大谷翔平の形容詞 (敬称略)

ユニコーン                      エイリアン (異星人、地球外生命体)                      火星人  
信じられない (unbelievable)                      不可能 (impossible)                      Incredible  
異次元                      規格外                      野獣 Beast (Beast mode・・・無論いい意味である)  
SHO-TIME                      OHTANI LAND                      Ohtani Storm  
サンタ・マリア                      神話の中の神

「野球」と書いて「おおたに」と読む

この惑星の上で、太陽系で、銀河系で最高の選手(彼らは世界一よりも、この惑星で一番の、という表現を好むらしい)

ヨーロッパでは野球はそれほど人気のあるスポーツではないが、マスメディアでは、大谷を表現するのに、サッカー選手をもってくる。「リオネル・メッシと(ゴールキーパーの)マヌエル・ノイアーをひとりでこなしている、」あるいは、「クリスチアーノ・ロナウドとブッフオンをひとりで兼ね備えた選手」と最大限の誉め言葉を駆使して称える。ペレに匹敵する選手とまで言う。

ある日、トラウトが、「内角のボールは右中間に、外角のボールは左中間に、そして真ん中のボールはセンターオーバーに打て!」と言ったところ、そのとおりにホームランを打ち、トラウトが思わず、「ヤツは化け物だ!」

大リーガーを超えた男・・・(もうひとりいる。イチローだ。)

Babe Ruth を超えた男・・・「並んだ男から超えた男になった。」比較対象がなくなった。

## 大谷のホームランの形容詞

日本の近くまで飛んだ

TVで満月を映しながら Moon Shot!・・・月まで飛んだ

海王星まで飛んだ。

高い弾道のホームランに際して、自由の女神の高さを超えた、  
ボールが真上に上った

打球から煙が見えた、信じられない!(同僚の Ward 談)

このバーベキューはいいですね!                      おはよーございます!

150メートル弾のとき、キャッチャーが、ボールを一時見失った。次に見つけたときには、すでに着弾点だったという。打った時の快音がまるで大砲を発射した時のような音だった。その直後、アンパイヤーが黙って捕手にボールを手渡した。(・・・そもそもキャッチャーがボールを見失うなどあるはずがないのだが・・・)・・・力任せではなく、確

かな技術の裏付けがある。バックネット裏の3階まで打撃音が聞こえた、という。

伝説の日。野球史上最高の日、と呼ばれる7月27日、アナウンサーが30秒ほど何も伝えず、沈黙していた。ダブルヘッダーで、1試合目は完封。2試合目に2本のホームランを放った時のこと。

最後の4割打者 Ted Williams が、502フィート（測定法は無論現在とは異なるが）のホームランを放った。現在では、The Lone Red Seat と呼ばれ、一席だけ赤く塗られている。70年以上経過しているのに、今まで誰もこのシートが存在を思い出させるようなホームランを、練習中にも打つことがなかった。大谷が、試合前のバッティング練習中、このシートより5段くらい下の地点にホームランを飛ばして、大騒ぎになった。

名古屋のバンテリン・ドームは、広くてホームランが出にくい球場で有名らしい。WBCの壮行試合で中日と全日本が戦う。大谷のバッティング練習を中日の選手が瞬きもせず見守る中、（まるで少年たちが見るように眼を輝かせてみている。）大谷は、27スイングして半分近くをオーバーフェンス。1本は4階席、3本を5階席に叩き込んだ。ドームの天井を舐めるようにボールが飛んでいく。まさに160メートル弾。……バッティング練習だけで「銭をとれる」選手の出現である。

アジア予選で、第1戦の中国戦に投げる。韓国選手たちは、2試合目だが、「大谷が逃げたのではないか」などと話していたとき、どこの球場だったか、「あの天辺の看板にガンガン打球をあてていた」と聞いて、しばらくその看板を見つめて黙ってしまった。試合の直前の打撃練習でも他の選手の1.5倍くらいの弾道と飛距離で、そのせいか、実力を発揮することなく、あわやワールド負けで、予選で敗退した。……それはそうだろう、前年、56本のホームランを放っていた村上が、腰が抜けるほど驚いたのだから。

念のため、米国でも二刀流は否定的にみられていた。高校を卒業してMLBに挑戦しても、多分“No!”と言われてさせてもらえなかっただろう。ここは、栗山の英断だろう。

口説き文句が、「誰も歩んだことのない道を歩もう」。

それでも、米国でのオープン戦では、打撃成績が上がらず、高校野球並みの実力だ、と酷評されていた。しかし、MLBシーズンが始まるとみな黙ってしまった。

右肘靭帯を断裂して、トミージョン手術をしたときには、再び二刀流は無理だったんだ、との声が高まった。

このとき、大谷の非凡な才能に着目したのは、NBAやNFLの一流選手たちである。彼らは、挙って大谷に期待を寄せ、別格扱いをした。フットボールでいえば、クォーターバックとタックル専門の選手、あるいはワイドレシーバーを兼ねている選手というわけである。

大谷の天賦の才能は、いくつかある。

1. 強靱な身体能力 投手としても野手としても。ランナーとしても。

2. 鋼のメンタル

3. 野球脳（野球 IQ）の高さ

4. 動態視力・・・Hand-Eye Cooperation

5. 常に相手をリスペクトできる「人間性」・・・特に子供に対する態度

これは、大所高所からみることができる。なぜなら、彼らが次代の野球を背負っていくから。さらに弱者に対しても分け隔てしない惻隱の情 謙虚さ。

Miracles for kids（難病の子供たちへの支援団体、NPO）に賛同し、慈善活動にも積極的に参加している。米国では当然なのだが、寄付金も多額に提出している。

6. 見た目 清潔感

7. 本人の言うところでは、常に成長できるところ。

8. これが最も重要なことなのだが、「準備（練習）・ストイックと表現される陰の努力」をすることが、まったく心身ともに負担にならないこと。

1. については細かく説明するまでもないだろうが、100 kg以上のバーベルを軽々と持ち上げたり、器械を使って筋肉の鍛錬などにより渡米時の体格から数年で飛躍的に筋肉量が増加しており、ドーピングを疑われるほどである。こういう努力を毎日継続しているのである。

2. についてはよくわからないところもあるが、元来の性質に加え、中村天風やハーバードのサンデルなどの哲学的な著書を繰り返し読むことも一因かもしれない。投手としての経験が打者の際には有利に働いているのかもしれない。幼いころからの積み重ねなのかもしれない。

3. は明らかで、失敗した次の打席には修正してくる。投げる方でも同じ。ランナーとして塁上にいても、山下大輔が表現したように、打球の見極めが渡米した頃より素早くなりましたネ。常に向上心があるからだと思う。まあ、センスがなければまったく進歩しないのだから、そういう面でもセンスが光ってくる。

4. は、岩手の緑がいいように作用しているというが、それもあるかも知れないが、やはり天賦の才能であり、ことにその訓練まで怠りないのも事実である。

Babe Ruth は、78rpm の回転するレコード盤の字を読んだという。最後の 4 割打者 Ted Williams も読んだというし、兵士として機関銃の命中率が飛びぬけた数字を残した。平均して 50% の命中率なら、一流。ところが Ted Williams は 77% の命中率だったという。イチローは、乱数表を一瞬みせる、という実験で、常に他の選手より 1 文字か 2 文字か多く記録した。大谷も可能だろう。

Hand-Cooperation というのは、「眼」で判断したとき、「手（腕）」が協調して連動することをいう。イチローあたりからいわれだしたのではないか、と思われるが、

もっと前からあるのかも知れない。大谷は打席の中でも変化球に対応できる。

5. 他人や社会的弱者である病気の子どもへの思いやり。Miracles for kids（難病の子供たちへのボランティア活動をする NPO 団体。）に対する活動は、フィリピンの英雄パッキャオ（ボクシングで体重が増えるにつれてその都度階級を上げてチャンピオンになり、6 階級を制覇）が、激賞し、大いに賛同し、大谷のファンになっている。パッキャオは、ファイトマネーで故国フィリピンの貧しい人々への多額の献金をずっとおこなってきており、現在は、フィリピンの国会議員になっている。
6. については言うまでもないが、これがゴリラか熊みたいな男ならここまでのフィーバーは起きていなかっただろう。ある男性が自分の娘か孫娘かの左手を掲げて、ここに指輪をはめてくれ！と大谷に叫んだ。娘さんは真っ赤になっていたが、満更でもなさそうだった。大谷が、無碍に無視もできず、ドギマギしていた。  
試合が終わって選手たちはバスに乗って宿舎に移動する。そこに何人かの女の子がやってくる。選手たちが、大谷に向かって出てやれよ、という。ある時には、半分の子が泣き出して。別の時、3 人の女の子が待っていて、同じく大谷がバスから降りたら、2 人が気絶して、「これじゃあ、ロックスターみたいな話じゃないか」
7. については、転んでもただでは起きない性格のようなものがでていて面白い表現だと思った。
8. 野球がうまくなれるならば、なんにでも挑戦する。イチローが、かつて、「自分は準備をすることが全く苦にならない。これが才能というなら、そうだと思う」という意味の発言をしていたことがある。大谷も同じである。だから、New York について質問されたとき、外に出たことがないので、New York の町は知りません。・・・一同呆然。

大谷に向かって、「野球の神様というのは存在すると思うか？」と質問した記者がいて、大谷の答。われわれが子供の頃から野球を始めても、たかだか 30 年余りしかプレーできない。われわれは、100%ではない。だから「きっと、100%の能力を持った野球の神様は存在すると思います。どこまでそこに近づけるのか、現役のうちにできる野球の技術すべてに取り組みたい。すべてにおいてレベル 100 なんかあり得ない。」

僕は、ここまで野球がうまくなった、ということをも自分の中に遺したいんです。・・・

「世界一の選手になる！」

世界一の選手とは、世界一の成績を残すことも大事なんですけど、僕が思う世界一は、野球をやっている人の中で、一番愛され、応援される人になること。それから野球を通して世界中にプラスの影響を与える選手になることなんです。

・・・上の 2 つがボクが感激し、感動した話である。この年齢で、ここまでの境地に達しているのか！と感嘆したのです。

この話は現実になっている。大谷が打てば機嫌がよくなり、申告敬遠には相手チームのファンまでもが監督へブーイングの嵐である。リーグ MVP を 2 回、それも満票で獲得し、ホームラン王にもなった。2 年連続 2 桁勝利 2 桁ホームランも史上初。つまり「世界の選手」になった。Babe Ruth も比較の対象からはずされてしまったのである。

念のため、Babe Ruth は、黒人選手と戦ったことはなく、「白い Josh、黒い Ruth」と呼ばれたが、ホームランの飛距離でも本数でも黒人リーグの Josh と比べて、Ruth が得をしている、といわれていた。Josh は、生涯 900 本以上のホームランを打っている。黒人リーグのレベルが低いというかも知れないが、6-4 の割合で黒人リーグが勝っている。

現に、今黒人選手がいなければ、MLB のレベルはもっと低いだろう。

日本での成績は考慮できない、というなら正しいかもしれない。昔、王がホームランバッターとしてキャンプ地をアリゾナ辺りを選んで行ったが、ホームランだろうという当たりがフェンス前で失速した、という。投手の投げる球の速さも、ときには日本にも速い選手もいたが、全体のレベルが違いすぎた。

## 大谷の人気の高さの秘密

1. 野球の華とよばれるホームランの数と質の高さ。飛距離もすごいが、打った瞬間の硬質な打撃音
2. 投手として一流の速球と自在に操る変化球。勝利数・奪三振
3. アメリカ人には考えられないようなゴミ拾い、折れたバットを拾い集めて相手に手渡す。

このゴミ拾いの話には、いくつも余談がある。最初は、ヨーロッパに遠征した全日本チームの応援に行ったサポーターたちが、自主的に自分たちの出したゴミをゴミ袋に入れて持ち帰ったことがヨーロッパ中で大きく報道された。さらに、ロッカールームを選手たちが掃除をして、次に使用するチームがすぐに使えるようにする。こういう文化というか心配りに対し、ヨーロッパのメディアで驚嘆とともに報道された。日本人おそろべし！

それを大谷までもがさり気なくしたことに米国のメディアでとりあげられ、カナダの道德教育に使用されるようになった。最近では、トラウトまでもがゴミ拾いをしている。こういうのを、徳は孤ならず、必ず隣あり、という。

4. チームメイトを大切にする。そして感謝する。三振以外は、味方の野手がアウトにしてくれたから。得点もチームメイトが獲得してくれた、と記者会見で話す。
5. 常に謙虚である。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と古来言われてきたことを実践している。付け焼刃ではなく、心の底から習慣として培われたものらしい。たとえば、バットボーイにプロテクターを渡すとき、丁寧に手渡し軽く肩に手を触れる。自チームだけではなく、敵チームのバットボーイにも同じようにする。だから、ホーム

ランを放って3塁ベースを回ったところで、敵チームのバットボーイとハイタッチをすることが起きる。……スタッフを大事にする。そういう裏方がいて社会は成り立っている、ということはこの年齢で理解している。ホームラン競争の賞金を約30人のスタッフにプレゼントする。ひとりあたり5000ドルは彼らの給料から見れば、大金である。

何かといえば日本や日本人の行動に目くじら立てる韓国のメディアが、このバットボーイへの行動を褒めそやし、韓国選手も見習え！と報じた。異例のことである。ちなみに、韓国や台湾にも大谷のファンは多いらしい。

6. ファンサービスを徹底して行う。これが自分に与えられた仕事であるかのように。慈善活動にも積極的に参加して、定期的に訪れて難病の子供たちを励ます。そして約束通りホームランを打つ。

7. 大きな話題になったのは、日本中の小学校にグローブを寄贈する。右利き用2つと左利き用をひとつ。小学校のみならず、支援学校にも配布する。……左利き用という、このあたりの細やかな配慮にみな驚く。

いずれ教科書に載るだろうと思っていたら、すでに算数や道徳の教科書になっているという。日本のみならず、カナダでも教員養成のために使用している。小学生の道徳にも当然使用されている。

8. 見た目の清潔さ。……女性ファンの増加 大谷は観客動員に寄与していない、と言って吊し上げられたバカもいるが、エンゼルスでは、1試合2000人。遠征に行くと5000人から観客が増加しているという。大谷のユニフォーム代は135ドルで、初めて投げたマウンドの土でもいくらかで売られている。それやこれやで、1人あたり200ドルではきかない。5000人になれば100万ドルになる。グッズなどの売り上げにも寄与すること甚だしい。「大谷が・・」触れた、ファールした、など付加価値が大きい。CM契約が、年間10億円にもなる。

ある選手が、「それなら（年収）10億ドルだしてやれよ！」と言ったというが、決して荒唐無稽な話ではない。

9. 道徳的には、米国は後進国である。黒人差別は、今でも根強く残っている。（この話をしだすと、際限がなくなる。ここでは書かない。）

大谷は気にしないから、黒人選手たちも平気でやってきて大谷が出塁すれば、守備の選手たちが何かと話しかけてくる。つまり、選手間にも人気がある。さらには、審判団も近づいてきて親し気に話し込む。

10. 汚い噂さえ出てこない。スキャンダルが全くないということは、まるで聖人君子であるかのような。野球一筋というのが理解できる。

11. 野球界全体を俯瞰できる。他チームの社会不安障害を抱えた選手の自宅を訪問し、奥さんや子供たちの心をも癒す。グリーンキー投手は、自身のみならず、家族の危機をも救ってくれた、と涙ながらに感謝する。コレア選手（プエルトリコ人）の家庭を訪問し、大谷の大ファンである妹さんが泣き出したという。

ヤンキースの監督が、大谷を目の当りにして、「3S という言葉があるのかどうか分からないが、投げるボールのスピードが速い、打球もとびつきり速い、さらに走るスピードが速い。そんな選手が、本当にいるのか？ そんな才能の持ち主が本当にいるのか？」と驚嘆する。

どの球団の監督も大谷が姿をあらわすと、嫌がる。ファンなのだが、大谷まで打順がまわるかどうか、を気にしている。

ブルージェイズの3塁手が、監督に向かって「なぜ大谷と勝負をするんだ！」と怒鳴りつけたところ、監督はそのとおりにして、次打席は申告敬遠にした。

勝負のことだから、監督としてはやむを得ない。家族や自分が大谷のファンだという監督や選手も多い。ヤンキースのジャッジやコールまで、ファンであることを公言している。その顕著な現われがオールスターゲームである。超一流の選手たちが、一緒に写真を撮ってくれと頼みこみ、故郷の自宅に飾って「家宝」である。当然ながらサインボールをねだる。ある選手が、「彼のサインボールをもらい損なうほどボクは間抜けじゃないよ」・・・600個にサインしたという。

ある試合で、ショートの選手が「英語はどうだい？」とたずねると、「少しだけ」とスペイン語で返すあたり、センスの塊としか言いようがない。

NHK の頓馬な記者が敵チームについて見下すような質問をしてきたら、相手チームも勝とうと努力している、我々も勝とうと努力している、とNHKの記者の質問を軽くいなして波風をたてない。少なくとも相手チームをリスペクトしていることを吐露する。

2021年、シーズンも終わりの頃、アストロズが **Post season** に出場できるかどうかのとき、ベイカーが、申告敬遠を繰り返す。あまりの回数に、相手の1塁手が気を使って、「ボクはあなたのプレーが大好きです。」と思い切って話しかけたところ、大谷が即座に”Me, too”と答えたらしい。その1塁手はその年の新人王である。

大谷が人気があるのは、投打で優れた成績をあげていることが大きいですが、それだけではない。惻隱の情にあふれた、高潔な人格の持ち主で、豊かな人間性、人間味あふれる挙措動作にある。慈善事業にも積極的に参加している。

ヨーロッパでは、長く野球は端っこに追いやられてきた。それはそうだろう。「植民地からの逆流入」である。2023年のWBCで、チェコの選手団が身をもって感じてきたことが大々的に報道された。それは、瞬く間にヨーロッパ全体に拡散し、マスメディアで、大谷が広く知れ渡る。

スペインやドイツ、ベルギー、イタリア、フランスなどで一気に大谷の特集を組む。現地では、サッカーがメインで、たとえば、フォワードで得点をあげ、同時にゴールマウスも死守する。・・・エムバベでさえ攻撃だけの選手といい、さらには、ペレまで引用する。

今書いておかないと忘れてしまうかも知れないから、念のため、書いておきます。ペレは、米国のサッカーをプロのレベルにするために、引っ張ってこられた。前年だったか、ペレはブラジル以外には出ない、と言っていた。相手が諦めると思って、極端に法外なギャラを要求したら、米国側がまさかのOKを出したから、仕方なく米国でサッカーをせざるを得なくなった。ベッケンバウアーにも参加した。

その最初の練習か試合かの印象を米国人に質問した。答えが、「能書どおりの精密器械というのは、本当に存在するものだ。」

それなら、MLBの試合をすることよりも、極端な話、大谷一人をヨーロッパに派遣して打撃練習をさせればいい。もし、MLB機構が心からヨーロッパ進出を狙っているなら、大谷を表面にだせばいい。(・・・・・・ここで連想が働くのだが、ここでは述べない)

チェコでは、野球の競技人口が数倍にもなったという。WBCのおかげなのだが、他の国でもWBCに参加すれば飛躍的な競技人口になるかもしれない。チェコの野球選手は、大谷がアマチュアの我々にも敬意をもって接してくれたことを声高に宣伝する。大谷が、チェコの国旗を付けた帽子をかぶって米国入りする。チェコのメディアは、大騒ぎする。大谷には政治的意図はないから、純粹にチェコの代表団に敬意を現したに過ぎない。

投手と打者の両方で一流だったのは、Babe Ruthだけで、そのほかにも二刀流の選手は数多くいた。現在でも二刀流の選手は、少ないけれどもいる。ただ、Ruthや大谷を超える一流レベルに達していないだけである。

大谷のMLBに対する功績は数知れないが、ルールまで変更させたのには驚いた。DH制で、投手としてDHで出場した選手は、試合の最後までDHで出場できる。・・・それまでは、投手として降板した者は、その時点でDHを解除しなければならない、だった。いかに、MLBコミッショナーが大谷の打撃を見せようとしているのかがわかる。



俗に「大谷ルール」と呼ばれている。

大谷ルールといえるようなものは、まだいくつかある。

1. 内野手は2塁ベースをはきんで、かならず2人ずつとする。……これは、大谷のライト前のヒットや右中間の長打に対抗するもので、大谷に有利なように作用する。
2. 2022年のドラフト会議から、二刀流枠を設けることになった。……大谷のように投手あるいは打者に限定しないもので、二匹目の泥鰻をねらったもの。まだでてきていないが、いずれはでてくるだろう、という思惑から。
3. インターリーグ（日本でいえば交流戦）は、従来移動距離の問題などから全く試合をしていなかったチームがある。それを30チームすべてが試合をするようになった。なぜか？ 大谷を全米でみせるためである。

今まで書いてきたことは、20冊に及ぶ大谷本や写真集やYou Tubeや雑誌などから得られた知識を書いたものである。

ここでは生の声を書いておく。ST. Louisは、米国のほぼ中央に位置し、Cardinalsの本拠地である。去年まではエンゼルスと試合をすることがなかった。試合そのものがなかったのである。今年からいわゆる大谷ルールの一環で試合が行われることになった。すると、そこからせいぜい4~5時間の所にある日本企業で、異様な光景がみられた。会社の事務局をひよいとみると、課長はじめすべての職員がひとりもいなかったのである。別室で働いていた娘の目撃談だから間違いない。「一人もおれへんねん。会社空っぽや。笑けたで」には笑った。（この子は、昔から「笑った」を「笑けた」と表現する。）

……オレでも甲子園辺りに大谷が来るというなら、観に行こうか、と思うもの。

WBC (World Baseball Classic) のとき、王が感動したのは、大谷が全員に向かって、「今日だけは憧れるのをやめましょう。1塁にゴールドシュミット、センターにトラウトがいて、外野にはムーキー・ベッツらがいる。けれども憧れたら勝てない。今日、我々は、勝ちに来たのですから。」（この直前、トラウトのサインボールが全員に配られた。）

王が現役の時代には、考えられなかったことである。

MLBは、幾度か消滅の危機に瀕している。そのたびに、新しいヒーローが出現し、存続することができた。最初は、シカゴを中心とした八百長問題である。時は、アンタッチャブルで名高いアル・カポネらのギャングが横行し、禁酒法が

制定された頃である。このとき、**Babe Ruth** が現れてホームランを打つことにより野球人気の回復に貢献した。この頃、ホームランといえば、シーズンで 10 本を超えることがなかった。そこに一人で何十本とホームランを打つ選手が現れた。ヒーローの出現である。これで、ようやく人気は回復した。

第二次世界大戦で多くの犠牲者を出した。このとき、出現したのが、初の黒人大リーガーである、**Jacky Robinson** である。様々な嫌がらせを受けながら、現在でも通用する記録を遺し、**MLB** の危機を救った。・・・後年、薬物使用（筋肉増強剤、ステロイド）疑惑でまた人気に翳りがみえた。マクガイアーやサミー・ソーサ。ソーサは、のちにバットにコルクを挟んでいたことが露呈し、失速した。あとハンク・アーロンやバリー・ボンズが現れたが、いずれも薬物使用の疑いで、人気に翳りがみえた。このとき、イチローが現れ、安打製造機として、また強肩、好守で華々しくデビューし、薬物使用が忘れられるようになった。さらに、イチローの晩年に大谷翔平が、二刀流をうたい文句に登場した。（米国では、**Two way player**）としてデビューする。漸減傾向にあったファンが球場に、大谷を見るためだけに足を運ぶ。そして 2021 年、肘の術後の予想外の大谷フィーバーである。

全ての監督や選手が言うのは、この大谷現象を観ることができるのは、あと 10 年くらいだ。今のうちに観ておかないと、われわれが観ることができるのは今しかないかもしれない・・・われわれは、自分も含め、大谷現象を同時並行で観ることができた。幸運なこと、この上ない。

将来、子どもや孫に向かって、「おじいちゃん、この大谷翔平と同じチームと一緒に野球をしていたんだ。」と自慢できる、などなど、同時代を過ごしているわれわれも同じことかも知れない。

今世紀中にみられるかどうかわからない。100 年に 1 人というが、たまたま 100 年ほど前に **Babe Ruth** がいただけで、今から 100 年後に大谷の記録を超える選手が現れるかどうか。誰も生きていくかどうかわからない先のことである。

ひょっとすると、1000 年に 1 人の選手かも知れない。（ここでも連想が働く）大谷は、高校生の頃、東日本大震災を経験している。1000 年に 1 度の大津波と大地震。このため、チームメイトの中には家族を失ったり、家を奪われた人もいる。それらを乗り越えて今、**MLB** にいる。

1000 年後にも米国が存在している保証はないけれども、日本は安泰だ。

柔道では、「木村の前に木村なく、木村の後に木村なし」剣道では、「高野の前に高野なく、高野の後に高野なし」という。大谷の場合も、「大谷の前に大谷なく、大谷の後に大谷なし」かもしれないではないか。

2023.12.08.